2020年度　北京大学国際関係学院学術交流　報告書

日時：2021年1月19日（火）15:00〜（北京時間14:00〜）

Zoom情報：

トピック：北京大学国際関係学院　成蹊大学法学部 研究討論会

１．スケジュール：

15:00-15:10　開会の挨拶

15:10-15:50　北京大学国際関係学院　賴華夏助理教授

（通訳：北京大学外国語学院　王京准教授）

題目：「国際秩序をどう語るか：リベラリズムと多極主義」

（原題“国际秩序的叙事之争—自由主义与多边主义辨析”）

15:50-16:05　質疑応答

16:05-16:45　成蹊大学法学部　遠藤誠治教授

（通訳：成蹊大学法学部　光田剛教授）

題目：「マルティラテラリズムを再創造する：新型コロナ後の世界」

（中国語題目“重构多边主义：疫情后的世界”）

16:45-18:00　質疑応答

18:30　まとめ、閉会

２．概要

2021年1月19日（火）に北京大学国際関係学院との間で学術交流が行われた。今年度については日中の往来が困難であるため、Zoomを用いて研究会を開催することとした。年内の見通しがつかないため、2020年度後期になってから計画を立てはじめ、年明けの1月に開催することとなった。

北京大学国際関係学院の助理教授・賴華夏は「国际秩序的叙事之争—自由主义与多边主义辨析（国際秩序をどう語るか：リベラリズムと多極主義）」という題目で発表され、主に国際秩序の歴史的発展とその経緯について自由主義と多国間主義という視座から近年の国際情勢、特に米中関係や東アジアの情勢について報告がなされた。

成蹊大学法学部・遠藤誠治教授は「マルティラテラリズムを再創造する：新型コロナ後の世界」という題目で発表され、主としてマルティラテラリズムおよびSDGsという視座から近年の国内情勢・国際情勢について、そして今後の展開についての報告がなされた。

参加者は20数名。今回はZoomを利用した会議形式ということで、深く議論ができるか心配されたが、報告後には両氏の研究発表に関することを中心に活発な議論が交わされ、当初17時までを予定していたが、18時半まで議論が及んだ。